

令和元年度 事業報告

*前文

理念

子どもが望ましい環境の中で、規則を守り秩序を保ちながら自立心と社会性を身につけ、人格形成に役立つ援助が出来る事を目的とした「モンテッソーリ教育」を導入しています。

家庭的な環境の中で、3・4・5歳は異年齢構成での交流を通じ、学び合い育ちあい、一人一人の持つ力を伸ばす事を大切に考え援助する保育を実施しています。

園の保育の柱である「モンテッソーリ教育」を様々な形で保護者に啓蒙してきました。その成果もあり年ごとに理解されている。朝行っているモンテッソーリ教具によるおしごとの充実の為、登園も早くなっている。職員の「モンテッソーリ教師ディプロマ所得者」は今年度は変化ないが、子ども達の秘めたる可能性を引き出し成長の手助けが出来る保育を実践しています。

又、[気になる子ども]も数人おり、専門機関との連携や市の巡回指導の指導を受け、家庭との連携をとりながら対応している。今年度は専門機関（東京小児療育）に8名通所している。

今年度も子ども達の笑顔と元気な声があり、そして地域に愛される保育園づくりを行ってきた。

1、施設事業運営

(1) 児童の処遇 *当園では、2月中旬より次年度のクラスへ移行を行っている為、事業計画の年齢区分とは異なっております。

ア、園児クラス編成

令和2年3月31日現在

クラス名		年齢	園児数	
就学前保育	年長児	5歳児	25名	
たてわりクラス	つきぐみ	24名	4歳児	8名
			3歳児	8名
			2歳児	8名
	にじぐみ	23名	4歳児	8名
			3歳児	8名
			2歳児	7名
	ほしぐみ	25名	4歳児	9名
			3歳児	8名
			2歳児	8名
I. Cクラス	すみれ	0.1歳児	10名(内0歳5名)	
	たんぽぽ	0.1歳児	8名(内0歳3名)	
	ちゅうりっぷ	0.1歳児	8名(内0歳3名)	
ひよこの部屋	ひよこ	0歳児	0名	
合計			123名	

イ、健康管理

*健康診断 年2回（春・秋）嘱託医の半田先生により実施する。

4月23日・10月9日 アトピー皮膚炎、風邪等の他異常はない。

*歯科検診

6月5日 土方クリニックの土方先生による検診を実施する。家庭で虫歯予防の意識が高くなってきている。幼児でも「虫歯0本」という子どもも多々いる。全体を見ると、年齢が上がるにつれ虫歯の数も多くなってきている。今年度は市内の保育園の中でも当園の虫歯保有者が減少したという報告があった。保有者には、歯科医への受診を指導し、検診後の状況等、保護者に報告していただいている。

又、看護師の幼児に向けての「歯の染めだし」や「2歳児以上の歯磨き指導」を行い、歯を清潔にするという意識づけを行う。給食面でも、給食の食事などの関連も実践してきた。又乳児クラスでの食後の保育士による歯磨きも実施している。

：5月31日 武蔵村山市保健センターの保健師による「歯磨き指導」の実施

：歯科検診時の欠席者は、後日各家庭で医院へ検診を受け、全員検診済みです。

*身体測定

毎日の看護師による視診・触診、毎月の身体測定を実施する。

身体測定（身長・体重）は、「健康カード」に記録する。

「健康の記録」は、保育園での保健活動を記録し、期ごとに家庭に返却し、確認・捺印していただき、家庭での健康の記録を記入し、保育園に返却していただく。

*毎月の「保健だより」の発行

「保健だより」発行の実施。保護者に子どもの健康面の意識づけを行いました。又、感染症に関する感染予防の協力や、保育園としての対応を伝える。又、モバイルメールにて、インフルエンザ等の感染予防の協力など周知した。

*感染症の対応

昨年11月インフルエンザA型が全国的に流行し、当園でも感染者があったが多くならず、保健所への報告はなかった。「送迎時に室内に入る人は1名」と感染症対策で保護者に周知していただいた。各クラスの消毒、換気、室温等徹底し感染予防に努めた。

又、家庭で感染者が出た場合は、なるべく家庭に協力していただき、家庭保育とし、感染を拡大しないようにした。

ウ、栄養管理

：毎月の給食献立表・離乳食献立表を発行。給食内容やカロリー摂取量の把握。

：アレルギー対象児に対して、除去食と代替え食の提供の献立表を、個人的に作成し発行した。

：「食育」についての「栄養指導」として毎月2回、様々な形で保育と関連した指導を行った。

：「給食だより」毎月発行する。[食]について様々な分野から伝えた。

：給食会議（毎月）・離乳食会議の実施。保育現場との連携を行った。

：和食を中心とした献立を作成し、四季を通じて旬の食材を使用した給食を提供した。

：サンプルケースに毎日の給食の展示（幼児・乳児・離乳食）する事により、内容を把握するとともに、保護者が給食に関心を持ってもらう事が出来ました。

：栄養管理者の研修参加による知識の確立。

：今年度は、3年目に入るが「日本の郷土料理」を提供する。日本地図で提供する県を掲示し、食事の写真を掲載して、日本の食の文化を知ってもらう取り組みを行い、子どもや保護者に理解していただいた。

：アレルギー児対応として、保護者・看護師・栄養士・クラス担任4者にて面談を実施する。アレルギー除去食の献立を保護者に提出し「確認と承認の印」を提出していただいた。

保護者のアレルギー食に関しての関心も強くなり、負荷試験等も病院にて受けて下さり、保育園とご家庭との協力体制が出来ている。今年度はアレルギー対応のこども2名が解除となり2名の対応となる。また、アレルギー児の誤食を防ぐため、個別の名前入りのトレーを作成し、必ず食の提供をする前に栄養士と保育士、クラスでは保育士間での「ダブルチェック」してから提供するなど徹底した。

今年も、誤食はなく職員の意識が高まっている。

エ、保育

＊乳児クラスにおいては、個々の発達を重視し、一人ひとりの発達に応じた援助、対応を心がけ、担当性を導入し、情緒の安定を図り、安定した生活ができるように環境（特に人的環境）に配慮し保育を行ってきました。朝はモンテッソーリ教具による「お仕事」を行う。又月齢の差が大きく生活に影響ある為、年齢ではなく、発達にあった環境で生活できるように配慮した。

＊1. 2歳児の小さな共同生活（I. Cクラス）の環境の設定

乳児クラスでの、小さな共同体。小さな集団で（10人～15人）、家庭に近い生活（食事・睡眠・遊び・着脱）を行う事を目的とする。お子様は小さな共同体で、精神面の安定を図る。

今年で、小さな共同体の3グループができ4年目となるが、生活面（排泄・言語）での成長・自立が見られ、1歳児特有のかみつきもほとんどなかった。

今年度は、朝のおしごと（モンテッソーリ教育）の環境を低月齢・中月齢・高月齢と、子どもの発達に応じた環境を整えた。

＊幼児クラスにおいては、[異年齢クラス]を基盤に生活を重視した保育を行う。異年齢の関わりの中で「個」を重視した「モンテッソーリ教育」を導入し、人格形成の援助を行う。

又、「年齢別保育」も行い、同年齢の中で、一緒に共感する喜び、仲間の中で伸びる力を養う。

＊「モンテッソーリ教育の導入」

モンテッソーリ教育による「おしごと」も充実し、子ども達の精神面での成長が著しい。

＊春の親子遠足では、狭山丘陵の自然を存分に楽しみながら、新緑の季節、緑のシャワーを浴び、歩く事が少なくなった昨今、親子で野山北公園まで徒歩の遠足を行った。

11月には、祖父母と一緒に[雷塚公園]へ徒歩の遠足を行った。核家族が多い昨今、お年寄りの優しさとのふれあいを目的に行った。

オ、安全管理

園内外においては、常に危険を意識したうえで、環境の整備を行ってきた。

＊園外に出る事も多いので、幼児クラスには「自己認識」できるような意識付けを行う。

5月には、「東大和市警察」の交通係に来園して頂き、園庭で、信号機を設置し、実際の道路に見立て道路の渡り方を指導していただく。

＊東大和市警察署による「防犯訓練」を1月に実施した。今回で8回目となり“不審者侵入時の避

難の方法・園児の安全を守る為の様々な訓練を行った。又、不審者をおさえる”さすまた“の使い方や、講和もいただく。

＊日々の小さな怪我に対して「軽傷報告」「ヒヤリハット」の書式を記入し、報告する事で、保育士の意識強化につなげた。

＊「危機管理部門」による園内外の危険個所の点検を行い、点検書類に点検報告を記入し、意識改革を行う。又、調理器具の安全点検を、月1回給食担当と共に行った。

大切な命を預かる保育園として、これからも安全管理には十分注意をしていきたい。

カ、障がい児

支援の必要な子どもが年々増加し、5名の子どもに加配保育士がついている。

今年度は、東京小児療育病院に8名通院している。ほとんどが発達障害である。その他気になる子どもが年々増加しているのが現状である。対象となる子どもには、保護者との面談（担当保育士・看護師・保護者）をして、状況を伝えている。市の巡回指導及び勉強会・東京小児療育病院へ通園児童の担当医が来園し、集団生活の様子を見ていただき、支援の方法やアドバイなど指導を受けた。園では「支援会議」を行い、援助を園全体で共有し対応をしている。

キ、その他

今年度は、以前から虐待の疑いがみられる家庭で、保護者・子ども（3人男子）両者に対する支援をどうしていくかを園より依頼し11月に「ケース会議」を開催する。市子育て支援課、保健師、子ども支援センター、主治医の宮田医師、東京小児療育病院、あゆみ保育園で、子どもに関わる施設の職員により行われた。経過見であったが、母親の育児困難により、1月に長男・二男を児童相談所養育施設へ入所、2月に3男を入所。結果、2月末に母親の子ども養育放棄となる。

（2）職員の処遇

ア、職員構成

園長	1名	調理師	1名
主任保育士	1名	用務	1名
保育士	13名	非常勤保育士	18名
看護師	1名	嘱託医・歯科医師	2名
栄養士	2名		

イ、健康管理

＊35歳以上 総合多摩健康管理センターにて成人病検診の実施（6月）

＊35歳以下 総合多摩健康管理センターにて検診の実施

＊非常勤保育士 総合多摩健康管理センターにて検診の実施（11月）

＊細菌検査 4月職員全員実施。給食担当・乳児調乳担当者の実施（毎月）

＊個人的な健康面では、自己管理をして頂き、長期欠席者もなく良好。

ウ、職務分担

＊保育園という専門職の中、乳幼児期の児童の成長・発達を担う上で、各職務での研鑽を積み、的確な指導ができるよう、責務を行う。又、職員の指導を行う中で、リーダー職員は、スーパーバイザー的存在となるよう、意識向上に努める。

※各行事 各々の行事責任者を筆頭に担当者は、企画・運営・実施・行事後の反省と任務を果たした。行事もその年の特色を生かし実行出来た。

各部門での協力により、準備等の時間の確保など、日々の勤務時間内で終了するように、園内で声を掛けあい、協力体制をつくり、園全体で行事が実行出来るようにした。

又、年度初めに計画を立て、早めの準備を行い、担当者の責務の負担等の軽減にもつながる。

エ、職員会議

月1回午後1時30分より3時までの午睡の時間を利用して実施。毎月、司会・書記は当番制とする。司会者は、2週間前までに各部署を回り意見を聞き、議題を設定した。各部署は議題に対して討議した内容を、職会にて報告する。時間内に終了しない場合は、午後16時より再度行った。議題は、全員で周知した結果の意見が出されて、解決に導く事が出来た。

オ、研修

自分自身のスキルを高める為に、様々な研修に参加する。研修参加により、自分の知識を高め日々の仕事に自信と余裕を生みだしている。

※「モンテッソーリ教育」関係の研修参加。

※保健・給食関係の研修参加

※法人関係の研修参加（日本保育推進協議会）

後日、研修報告の必要性のある内容に関しては、研修報告会を行い周知した。

※キャリアアップ研修の参加。専門リーダーは必修。

カ、部門の活動

5つの部門で、年間目標に沿った活動を行った。

- ・モンテッソーリ教育・環境—モンテッソーリ教育を保護者に知ってもらう為に、教具の紹介の毎月ポスターを作成し、園内3か所に貼って、理解してもらった。又、教材の補充・整理・発注等を行う。又、モンテッソーリ教育に関する本を保護者に貸し出す。
- ・危機管理部門—園内外の危険個所の点検・調理器具の月一回の点検・東大和市警察による、防犯訓練、交通安全教室・救急救命の訓練・毎月の避難訓練の実施
- ・PR部門—モンテッソーリ教育を地域の人知ってもらう為に、支援センターへ出向きPRする。栄養指導・モンテッソーリ教育の紹介・エプロンシアターを見てもらう。市の広報・近隣の子育てセンター・支援センターに園の情報パンフレットの配布など行った。この結果、保育内容に共感した家庭が、新入園者に繋がっている。
- ・環境整備—保育園内外の環境・保育現場の環境の整備・清掃を行った。
園児が毎日散歩に出る遊歩道のごみや犬の糞の清掃を行う。
近隣の住民にも好評を得、犬の散歩での意識改革にもなっている。
- ・労務管理—職員が働きやすい環境づくりを行う。月1回の有給休暇取得の実践。休憩時間の取得確保の実践、などに取り組む。

5つの部門が、以上の活動を行う事により職員の意識改革に繋がり、自分たちの手で「働きやすい職場づくりを実践した。主任・副主任は、全体を把握するという任務とした。

キ、福利厚生

職員旅行に参加。職員のコミュニケーションを図る事を目的とする。今年度は、11月に「劇団四季」を観賞。昼食を皆で食す。園で費用の半額を負担した。

ク、事業計画会議と総括

年度初め（4月）と年度末（2月）の土曜日に実施。

年2回の土曜日に開催。正職員・非常勤職員出席で開催する。

*事業計画会議では、1年間の計画を発表する。

保育部門・給食・保健・事務所と各部・各部門・各専門リーダーが1年間の計画を発表した。

*総括では1年間の反省・課題を出し、全員で課題解決や1年間の内容での良かった事などを発表した。反省を生かし、次年度の保育に向けて生かしていきたい。主任・副主任が司会進行を務める。

（3） 保護者参加行事

ア、保育参加・参観・個人面談

*幼児クラスー6月に2週間を目安に行う。保護者の希望を取り、1日2～3名の参加し落ち着いた環境の中での参観をしていただいた。面談は、3歳児は全員、4・5歳児は希望者が行った。12月には、年長児の「就学前面談」を全員実施。子どもの様子を伝え就学に備えた。

*乳児クラスー10月～11月

各グループ1日1～2名で行う。日々の様子を見ていただく事を目的に行った。

保育の中に、お母様も入っていただき、一緒に保育に参加していただく。両親の参加も多い。給食は希望者のみ提供する。その後面談は全員行った。

*参加した保護者には、アンケートをいただき、これからの保育の参考とした。

イ、保護者会

・年度初めの4月に、全クラス実施する。各部署の全体会（給食・保健）を行う。

保育方針の理解・保護者のコミュニケーションの場とする。

幼児クラスー各年齢の年間予定と、クラスの職員紹介、保護者の意見交換の場を設ける。

乳児クラスー茶話会の形で、気軽に話ができるようにした。各年齢、和やかに行われ、話も弾む保護者会となる。

ウイークデーであるので、参加者は全体の4割である。

ウ、おやじの会

父親有志による「おやじの会」

年間の活動として、ミニ運動会・あゆみまつりの縁日・クリスマス会のサンタクロース・節分の鬼・凧揚げ大会の実施。入園・卒園式の保護者代表の挨拶など行う。

今年度も、保育園行事には積極的に協力していただく。保育園と保護者との大切な絆である。普段、仕事で忙しい父親が、子ども・保育園・保護者との接点を創っている。

エ、その他

今年度は、2月初旬より、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し始め、日本でも、感染者が日に日に増加し、3月初旬より、学校関係が休校となる。社会的に感染拡大を防ぐため3密（密閉・密集・密接）が実施される。その為保育園でも、卒園式の簡素化など、子ども達の感染阻止の為に、様々な、措置を講じた。

2、 施設事業管理

(1) 事務関係

ア、 会計・管理事務

- *小口現金 帳簿会計により行う
- *施設・本部会計 コンピューターによる会計

イ、 児童処遇事務（保育・給食・健康管理）

ICT化によるタブレット入力

- *保育 年間・月指導計画・週案・日誌の記入
保育経過記録の提出 5歳—3回 4・3・2歳—4回
生活習慣記録の提出 1歳—6回 0歳—毎月

個人記録の記入 乳児 0・1歳児
連絡帳の記入 0・1・2歳児（毎日）
- *園だより 毎月発行 月の行事内容・お知らせ
- *給食 給食献立表・離乳食献立表・給食だより発行・アレルギー児献立表—毎月
アレルギー児の面談の実施
- *保健 保健だよりの発行
毎月の身長・体重—「健康の記録に記載」
春・秋の健康診断の実施（4/28・10/14）
歯科検診の実施（6/3）
看護師による保健指導（歯磨き指導・手洗い指導・トイレ指導）の実施

(2) 設備関係

ア、備品関係

乳児用呼吸センサー2台購入。

イ、 保育用品購入

モンテソーリ教具の購入。日々の保育教材等。

ウ、給食品購入

日々の給食に必要な食材の購入。今年度は、毎月の給食費予算内で、賄う事が出来ている。子どもの安全・栄養・食育に繋がる給食となっている。

(3) 災害対策

* 「危機管理部門」にて、子どもの命と安全を守る為、「衣・食・住」の様々な方向からの対応を行う。「避難訓練」を保育園の開所時間内の様々な時間帯を想定して訓練を実施した。保護者にも一緒に参加していただく訓練（朝・夕の送迎時）もある。

又、園外の訓練では、モバイルメールを利用して周知して、訓練に繋げた。

* 東大和市警察に依頼しての訓練

「防犯訓練」不審者侵入を実際に行い、子どもを安全に避難させる訓練を実施。

毎年行う事で、非常事態を様々な形を想定しての訓練ができています。

* 非常事態の対応として、お子様の衣類を準備して頂き、防災倉庫に保管している。

* 9月の「災害時引きとり訓練」では、非常事態を想定して、給食担当者が園庭にテントを設置、ガスコンロを使用して、煮炊きをし、非常食を提供した。

4、 会計収支予算書・収支決算書

別紙のとおりです。

5、 添付書類

収支計算書・決算書

以上